

自然や身近な物を使った遊びの中での気づきの質を高める生活科授業の工夫

— 視点を明確にした比べる活動と気づきの交流を繰り返して —

生活班 井熊 由佳(小学校教諭)

主題設定の理由

社会的背景や学習指導要領から

活動や体験を通して得られた気づきを質的に高める指導が十分に行われていない。気づきの質を高めるための指導の充実と、気づきを比較、分類、関連させるための指導の工夫が求められている。

児童の実態から

新たな発見や不思議に思うことを見つけることのできる児童が少ない。自然や身近な物のもつ働きやきまりに目がむいていない。

自然や身近な物の目に見えない働きや、一定のきまりに気付くようにしたい。
自分の工夫を自覚したり、よりよい工夫に気付くようにしたい。

比べる活動と気づきの交流の繰り返し

視点を明確にした比べる活動

自分の活動や作品が前後でどのように変化したが比べる

→ 身近にある物の目に見えない働きに気付く
→ 自分の工夫に気付く

自分と友達の作品や活動の工夫で共通点や相違点はどこか比べる

→ 目に見えない働きに対する新たな気づきをもつ
→ 自他の工夫を自覚する

活動
作品づくり

自覚した
気づきを
取り入れた
活動の工夫や
作品づくり

比べる視点に照らし合わせた気づきの交流

自分の活動や作品が前後でどのように変化したが比べて気付いたことを紹介する

→ 目に見えない働きに対する気づきを自覚する
→ 自分の工夫の良さを自覚する
→ 友達の工夫の良さに気付く

自分と友達の作品や活動の工夫で共通点や相違点を比べて気付いたことを紹介する

→ 共通点をもとに一定のきまりに気付く
→ 自他の工夫の自覚を深める

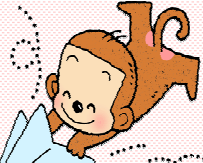
気づきの質の高まり

具体的実践

小学校二年生 生活科「つくってワクワク あそんでワイワイ」

単元の目標：自然や身近な物を利用したおもちゃを工夫して作ることを通して、遊びを面白くしている目に見えない働きやきまりに気付く。

○自分の活動や作品の前後の変化を比べる



比べる視点

動きがどう変わったかな。やり方をどのように変えたかな。
比べる対象 作り直す前と後の自分のおもちゃの動き方

車が前に倒れちゃう。バランスが悪いのかも…

後ろにおもりをつけてみよう。

風を当てても動かなくなっちゃった。重すぎるせいかな。

比べる視点を示し「どうして変えたの」「変えてみてどうだった」と尋ねたところ、風の力に目を向けた発言が聞かれた。風によって物が動かせることや、風が動かせる物の重さについて気付いている姿ととらえた。

○自分と友達の作品や活動の工夫を比べる



比べる視点

よいところや真似したいところはどこかな。同じ所や違う所はどこかな。
比べる対象 友達のおもちゃと自分のおもちゃの動き方や材料、作り方

友達とタイヤの付け方が違う。私のタイヤは、前後が近すぎるな。

友達の車は風が逃げないようになっているんだな。

同じ動力を使ったグループ同士でおもちゃの貸し借りをを行った。比べる視点を示し実際に交換し合って使ったことで、共通点や相違点、良さや真似したい点を明確にし、「風を閉じ込めればいいんだ」とつぶやき、風が逃げないように作りかえることができた。よりよい工夫に気付いている姿ととらえた。

比べて気付いたことを紹介する場面

T「どこを変えた？変えたら動きがどう変わった？」

やっぱりおもりをつけなくてバランスをとらないと…

「おもりをつけたら動かなくなっちゃった」
「ぼくは、材料を軽いものに変えたら、よく走ったよ」
「卵のパックは軽いから大丈夫だった」
「風を強く出すと、車も一気に走るよ」

↓一回目の交流後の作品

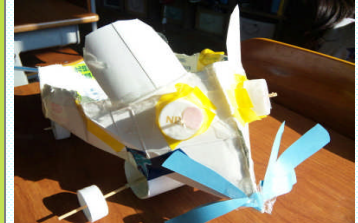


「軽い方がよさそうだな」と感じていた児童も、軽い材料を使っている友達の工夫を聞き、おもりを外していた。「軽い方がよく動かせる」という風の働きに対する気づきをはっきりと自覚した姿ととらえた。

T「友達のおもちゃで、真似したいところ(違い)や自分と同じところはどこかな」

「風が逃げないように、しっかりテープではってある」
「大きなうちわであおいでいるから、たくさん風を送れるね」
「風の当たる場所が広くて、風がたくさん当たるね」
「羽が重すぎるから、小さくするといいよ」

↓二回目の交流後の作品



付箋に良さやアドバイスを書いて交換し合った。「風がたくさん当たるようにする」「風が逃げないようにする」「重すぎない方がよい」という一定のきまりに気付く言葉が書かれていた。これらの気づきをその後の活動に取り入れ、工夫することができた。他の児童の作品にふれ、気づきを交流したことにより、自分や友達の工夫の良さを自覚を深めた姿ととらえた。

気づきの質の高まり

成果と課題

成果

視点を明確にした比べる活動を行ったことで

○前後の変化や複数の物を比べることで、どれが最もよいかを児童が考え、よりよい方法や工夫に気付くことができた。

気づきの交流を図ったことで

○自分の気づきを自覚することができた。
○気づきの共通点を明確にすることができた。
○共通点をもとに一定のきまりを導くことができた。

比べる活動と気づきの交流を繰り返したことで

○比べることで得た気づきを、交流によって自覚したり、質の高い気づきを全体で共有したりして、次の活動に活用することができた。

課題

○自然や身近な物を使った遊びにおいては、それまでの経験や個々の技能によって単元の始めのうちの個人差が大きい。十分に遊びを楽しんだり、技能的に支援を行ったりした後に、比べる活動を取り入れた方がより気づきが多様に引き出せると考える。